

令和 7 年度経営評価委員による年度末評価

◎：よい点 ★：感想・情報提供等 ◇：意見・要望等

1 令和 7 年度事業についての意見・感想

経営全般	<p>◎生成 AI の利活用及びリテラシー能力の向上も含む教育 DX の推進や、特別支援教育力のさらなる向上、次期管理職及びミドルリーダーの育成等を視野に入れた資質・能力の向上など、本県教育の課題解決に資する研修体系の整備と内容の改善・刷新を進めていただき感謝している。</p> <p>◎時代に合った、新しい取り組みもなされており、大変良いと感じております。</p> <p>◎様々な事業について、学校現場からの声に耳を傾けながら、改善のための取り組みが常になされていると評価できます。</p> <p>◎課題は様々あると思います。それに対して改善策をしっかりと立てていて、研修会などをしっかり行っているのは素晴らしいことだと思いました。</p> <p>◎本県の「指標」を踏まえ、教員のキャリアステージに応じ、幅広く研修・講座、研究を実践している。</p> <p>★現在は各校種の指導主事の方々が配置され、講座等も数多く受講者の求めにきめ細かく対応できるような体制が出来ております。しかし現在の教育を取り巻く環境等の変化が激しくそれに応じて教育課題も多岐にわたり存在し、指導主事の皆さんの苦労は多いと思っています。</p> <p>★令和 7 年度の事業については、今日的な教育課題が網羅されており、研修を受ける現場の先生方は大変助かっています。こうした研修を経験した先生方の指導力をいかに現場で発揮してもらおうかが一番大きな課題であり、これは学校の課題であると思っています。</p>
研究・研修事業	<p>< 研究について ></p> <p>★研究では、ICT の効果的な活用に向けた伴走型支援や、OJT の活性化に向けた取り組みをテーマとしており、学校現場への還元が待たれるところである。</p> <p>< 研修について ></p> <p>◎研修を受講する教員が、常に学校を離れて研修することが難しい状況が増える中で、集合型研修だけではなく、オンライン型、オンデマンド型、訪問型、継続型サポートなど、多様で柔軟な研修の形態を工夫してくださったことで、「学校を離れなくても研修を受講することができる」というメリットが確実に増えた。</p> <p>◎集合型、オンライン型、オンデマンド型等の研修形態を提供し、教員のニーズに沿った受講スタイルに応じている。研修の進め方もより主体的に自分事として参加できるような様々な工夫がなされ、受講者の意欲を喚起している。(受講者の振り返りアンケートでは充実度が高い)</p> <p>◎集合型に加え、オンライン型、オンデマンド型等それぞれの特徴を生かし、キャリアステージに応じた教職員の研修機会の確保および研修内容の充実にも努めていただいていることに、感謝申し上げます。</p>

- ◎「訪問サポート」には大変感謝している。各自治体においては、それぞれの地域や児童生徒の特性に応じた課題（ex. 特別支援教育、複式指導とか…）があり、教育事務所や市町村の指導主事等ではきめ細やかなサポートができず苦慮している。今後ともご配慮していただければ幸いです。
- ◎教育課題が多様化している中で、様々な研修を企画・運営していただき感謝しています。現場で困っている多くの方々が、更に参加しやすい取組を期待します。
- ◎教員のキャリアステージに沿って、きめ細かく体系的に研修講座が組まれている。
- ◎学校の課題等に対応し、きめ細やかに各種講座等がプログラムされています。
- ◎研修内容も社会の変化とともに地域における教育環境や児童生徒の状況に応じた内容がブラッシュアップされ、より教育課題に対応した専門研修等がなされている。（AI の授業での活用、校内 DX 化、不登校や発達障害への対応、継続支援…）
- ◎研修受講者を対象とした調査結果も非常に高い評価を示しており、受講者の満足度の高い研修を提供できていると考えます。
- ◎研修では、受講者のほぼ全員が充実感を得ている。研修により身につけた見方や考え方を、各々の実践に結び付けていくことが期待できる。
- ◎「事後アンケート」を行い、研修形態の満足度、運営等について意見を把握し、受講者の意見を随時反映しながら各講座を実施したことが、研修者の高い充実度につながっている。
- ◎今年度から、全国教員研修プラットフォーム Plant の本格運用を進めていただいたことは、自ら学びをデザインし、実践を通して成長する教員の育成につながる効果的な取組みであると考えます。
- ◎研修では、Plant を効果的に活用し、研修者の研修履歴の蓄積をはじめ、申し込みの簡略化等に努めることができている。
- ◎各種研修について、高校教育課としても連携を図りながら周知に協力したい。
- ★Plant の活用が進んでいる。一方で、申込後に研修者自身が Plant で要項等を確認するといった意識の向上については、今後も引き続き周知する必要がある。
- ★基本研修の受講者が、体調不良や産休・育休等の理由で欠席した場合の代替研修について、様々なケースがあったが、担当者間で丁寧に情報を共有し、受講者それぞれの状況等に応じた適切な内容を検討することができた。
- ★研修は一度受ければ終わりではなく、継続性が重要です。今後も学校と連携しながら、先生方が自分のキャリアに応じた講座を受講し自分の教員としての資質を向上したいと思えるような手立てを継続していただきたいと思っていますし、現場の私たちも先生方へ研修の大切さを引き続き指導していきたいと思っています。

	<p>◇5年研、中堅研の受講対象者に係る在職期間について、除算をしない県がある。今年度から研修者自身が Plant で受講を申込みことになったため、受講対象かどうかの確認がより難しくなっている。各学校の管理職、各市町村教育委員会、各教育事務所、教育センター、教職員課が連携し必要な確認を重ね、漏洩の無いように受講確認を行うとともに、除算を行うかについても含め今後も検討する必要がある。</p> <p>◇初任者研修や経験者研修等において、担当者間で研修内容の情報を共有し、連携を図って研修を実施した。初任者研修では、「新採教員育成・支援事業」対象者の持ち時数などについて学校から質問を受けた。研修の手引に小さな記載はあったが、大切な内容なので、より目立つようにするなど配慮をお願いしたい。</p> <p>< ICT活用・情報教育について ></p> <p>★県教育センターのホームページが充実しており、教員個々が必要に応じて研究関連資料や説明動画を通して個別最適な研修を主体的に受けることができる。今後も、最新の情報の提供をお願いしたい。</p> <p>◇本年度、山形市PTA連合会で「ICT教育の推進・ICT教育環境の整備～未来を生きる山形の子どもたちに不可欠な力の育成～」のテーマで、市教委との教育懇談会を実施しました。山形市のICT教育の現状をお聞きし、実際にタブレット端末を使用してみて、ICT利活用で教育の質が高まることを実感できました。また、ICT機器の充実や更新等も課題としてあるのではないのでしょうか。さらなる教育DX、ICTを活用した授業づくり等を推進していただきたいと思います。</p>
相談・支援事業	<p>< 特別支援教育について ></p> <p>◎特別支援教育に関する対応では、「第4次山形県特別支援教育推進プラン」や「管理職向け手引き」、「特別支援教育コーディネーター連携ハンドブック」などを取り上げ、実践的な研修に努めていると評価できる。</p> <p>◎専門研修として、「配慮を要する児童生徒への支援講座【基礎・基本編】【ICT活用編】」について、本課でも特別支援学校を対象とした同様の研修を実施しているが、センターで小中高等学校を対象に実施していただいたことによって、広く成果があったものと受け止めている。</p> <p>★「次期管理職の育成」に向けた取組みについては、今後も継続する必要があると考える。県教育局特別支援教育課では、特別支援教育に係る「管理職の手引き」を発行したが、手引きを活用し校内研修の充実に引き続き取り組んでいく。</p>

2 山形県教育センターへ期待することや要望等

経営全般

- ◎人を育てるといふことは本当に大変だと思います。山形県の学力向上を目指してご尽力下さいますよう今後ともよろしくお願い致します。
- ★これからも教員等の資質向上のため、よろしく申し上げます。
- ★今後とも新採支援事業等、県事業での連携をお願い致します。
- ★今年度も当教育事務所の計画指導訪問等の際には、教育センターの指導主事の方々からお力添えをいただいた。また、専門研修について、本事務所の指導主事の聴講生としての参加を認めていただきありがたかった。ぜひ、来年度も聴講生として参加させていただきたいと考えている。計画指導訪問も含め今後もお力添えをお願いしたい。
- ★県教育局や市町村教委、校長会等との連携をさらに深めた取組みに期待したい。
- ◇ [2 山形県教育センターへ期待することや要望等 <研修について> (※)] の実施・評価・改善を行うために山形県教育センター経営評価委員会に幼稚園の代表（例えば、山形大学附属幼稚園長）を委員として加えていただきたい。本県には県立幼稚園はないが、県と山形大学が連携して研修の充実を図っており、来年度からは山形大学教育学部が再設置され、その実践研究においても幼保小の連携・接続は今後さらに重要性を増していくことを考えると、本経営評価委員会の委員に、山形大学附属幼稚園長が加わる意味は大きいと考える。
- ◇教育を取り巻く状況の変化の速度は増す一方である。委員会や協議会で検討を重ねて、時間と手間をかけて計画やハンドブック、パンフレットを作成しても、その内容がもはや現実の変化のスピードに追い付いていないという場合も少なくない。こうした現状を踏まえて、「状況の変化に即して、常にアップデートする」ことを前提とした仕組みや方法を工夫していく必要がある。例えば、「〇〇について、このハンドブックを作成した当時は…の方法が適切であると考えられていたが、現時点では、～という手立ての方が効果的であると考えられる」など、状況の変化や実践の積み重ねに応じて、部分的なアップデートを柔軟にできる形を考えたい。
- ◇学校を訪問した際、中学校の校長先生方は異口同音に「生徒は勉強をしなくなった」「生徒の学力が低下している」とおっしゃっていました。学校現場に行くことで得られることは必ずあります。県教育センターは研修センターとして先生方を指導、また様々な研修を企画・運営する役割を担っておりますが、受講者の方々を待つ、または呼ばれたら行くばかりではなく、指導主事の方々が学校の課題は何かを探るために学校に出向き、勉強してくることも大切ではないかと思っています。そうした経験こそがこれから必要な研修等に生かされるものと思います。今後とも学校と繋がる指導主事、県教育センターとして県の教育をリードしていただきたいと思っております。
- ◇小規模な自治体においては、小規模校も多く学校単位での OJT の活性化が難しく、市町村ごとの「学びカフェ」のような「教師の学び合いの場」を提供できないものかと模索しています。指導主事等への研修も含め、その構築に支援していただきたい。

	<p>◇本県教育現場の現状を的確にとらえ課題を明確にしたうえで、自前主義にとらわれず、大学や民間企業等の力を大いに活用するとともに、他県の好事例についての情報収集を進め、本県教育をけん引する最先端の施策を提案していただきたい。</p> <p>◇全国学力学習状況調査のテストの点数や質問紙を精緻に分析するとともに、CBTを活用した取組みも活かし、本県の学力向上に関しどのような施策を講ずるべきか、課題を明確にしたうえで提案していただきたい。</p> <p>◇教育センターの運営に当たっては様々な会議等を開催されているが、真に必要な会議か精選し、実質的ではないものは大胆に省略する、必要な場合もオンラインにしたり参集人員を厳選するなど、会議の回しに労力を割くのではなく、本来業務たる研修・研究に注力できるよう積極的にマネジメントしていただきたい。</p>
<p>研究・研修 事業</p>	<p>< 研究について ></p> <p>◇時代の変化のスピードは10年前とは比べようもなく早くなっています。それに伴い教育の変化も著しく早くなり、今はアナログからデジタルへと教育も変化しております。一方こうしたデジタル社会に適応できない高齢の先生方が学校には数多く存在しております。時代に取り残されないよう教育のデジタル化は急務であります。デジタル先進国のフィンランドが学力低下や子供の心身の不調等の課題を受け紙の教科書やアナログな学習方法に回帰した事実もあります。そうした意味では、伝統芸とも言えるアナログ時代の先生方の知恵や技法は、逆に今後の教育には必要になってくると思っています。指導主事の方々には国や県の教育施策を進めてもらうとともに、その課題についても研究をしていただきたいと思っています。</p> <p>< 研修について ></p> <p>★働き方改革が進む中、教材研究をいかに効率的に行うかが大きな課題となっております。生みだした隙間時間を、研修に充てられるような取組みが必要となってくるものと考えております。</p> <p>★課題の所在については理解しておりますが、研修受講履歴入力管理については効率性の面から改善の必要があると考えます。</p> <p>◇生徒の「主体的・対話的で深い学び」、「協働的な学び」と同様に、教職員の学びについても、対話やリフレクションの機会を増やし、研修観の転換を図るような講座の設計に取り組んでいただいていることが、研修参加者が研修当日のみならず研修後も主体的に学び続ける姿勢に繋がっていくと考えられる。今後も研修内容や研修の在り方について、一層の充実に努めていただきたい。</p>

- ◇ここ数年の新採教員の増加により、若手教員の授業力に一抹の不安を覚えます。
- 新採研、2・3年次のフォローアップ研修等での内容について、児童生徒が「わかる、できる」を実感できる授業設計や指導技術の育成に関する継続的な研修を強化していただきたい。
- (まずは、教師主導の一斉指導の中で、いかに興味関心を持たせ、指示、発問、説明、板書などを吟味し、ここに対応しながらも力の付く授業が提供できるか…ここをベースとした授業づくりが基盤になるのではないかと思います。)
- 主体的・対話的で深い学び、個別最適な学び、協働的な学び、ICTの活用等々にとらわれすぎているのではないかと危惧しています。県教委、市町村教委の指導主事と連携し、理論と実践をつなぎ、継続的に授業力の育成に関わることが、県の学力向上策の一つとなるのではないかと考えます。
- ◇(※)令和8年度に、県教育委員会に「幼児教育センター」が設置され、幼児教育の充実とともに、幼児教育と小学校以降の教育との円滑な接続を目指した取り組みが一層推進される予定である。そこで、小学校教員の初任者研修に、「幼稚園での参観・研修」を位置付けていただきたい。今後、幼保小の連携及び「架け橋期」の教育研究を含む円滑な接続等を推進する上で、小学校の教員が、幼稚園等の保育について体験を通して理解を深めていくことは不可欠になると考えるからである。
- ◇講師の先生方に対する期待やその立場の高まりから、講師の先生方に対する様々なコンテンツがさらに整備されることを期待します。
- ◇オンデマンドを活用した研修等、研修の実施方法についても、参加しやすい環境の構築を目指していただければと思います。
- ◇現在の研修形態(受けに来てもらう)だけではなく、継続型サポートのように一人の教員を数年間サポートするなどし、その資質・能力の向上を図れるような取組みを検討いただきたい。
- ◇各研修のあり方等について、受講者が自分事として考えられる研修になるように切り替えられている。その結果について、今後も情報提供をお願いしたい。また、若手教員が増える中、教科の専門的な指導力の向上も急務であるため、より一層の教科指導の内容の拡充をお願いしたい。
- ◇令和7年度から実施された「第7次山形県教育振興計画」や、同年度内に策定を予定している「山形県教育DX推進ビジョン」に基づき、研修体系や研修内容等の調整を図る必要がある。
- ◇特に、学力向上に向けた授業づくりや、特別支援教育を基底とした生徒指導、保護者対応などの喫緊の課題への対応について、教員の資質・能力の向上に努めていくことが重要である。
- ◇Plantの活用について、センターでは、活用方法を模索しながら利活用の推進を進めていただいている。センターでの活用事例をまとめて他の事務所等でも共有できるようにしていただけるとありがたい。
- ◇様々な経歴を持つ初任者が増え、今までの方法では確認が難しくなっている。確実な情報が教職員課から得られるような情報ルートの整備をお願いしたい。

	<p>< ICT活用・情報教育について ></p> <p>★県教育センター研修講座受講者「振り返り」で、約26%が悩み・困り感ありと回答しています。業務量のバランス、負担感、超過勤務等の多忙化が多く、先生方の働き方改革が急務であることがわかりました。生成AIの活用は授業だけでなく、校務の効率化にもつながると思います。令和8年度の専門研修「生成AI活用講座」の充実を期待しています。</p> <p>★急速に進展する教育DXに対応し、学校現場に届く実践的な研修や講座等による継続支援が求められる。</p> <p>◇会議の中でも話題になった生成AIの活用や、現状から一步踏み込んだICTの活用方法等、これからの時代に必須のテーマについて、県全体がレベルアップできるような取り組みに期待します。</p> <p>◇第7次山形県教育振興基本計画において、教員のICT活用の指導力向上の取り組みを推進することとなっていることから、教職員のニーズに応じた研修講座の開設や訪問サポート、最新の情報提供をお願いしたい。</p>
<p>相談・支援 事業</p>	<p>< 特別支援教育 について ></p> <p>★特にLDの児童生徒への支援に関する具体的対応が学校で求められている。LDに関する研修の充実に向けて、連携して取り組んでいく。</p> <p>★「UDハンドブック」や「特別支援学級ハンドブック」の更新が必要と考えている。更新にあたっては、県教育局特別支援教育課としても情報提供や共有など行っていく。</p> <p>◇通常校で、特別支援教育が重要である、というお話をお聞きするようになりましたが、では各校においてのOJTでどのような取り組みがなされているかという、ベテランといわれている先生方の指導から自分のものにしていくことが多いとお聞きしております（偏った意見であれば申し訳ありません）。</p> <p>専門性というものは、何をやったら専門性が高まるというものではありませんが、様々な研修をすることで、高まるものと思っております。ぜひ、教科等の指導法と同等に、そして、自立活動の考え方も踏まえた指導の在り方などの研修メニューの開発をお願いします。</p> <p>< 教育相談について ></p> <p>◇昨年度、山形市PTA連合会で「いのちの大切さ学習会」を開催しました。テーマは「子供を犯罪から守るために」～少年の非行及び被害の現状から～で、山形県警察本部の担当者から少年非行や被害の現状について、「最新の情報」や「具体的な対策」等のお話を伺いました。ネットの身近な犯罪や闇バイトなど、子供たちを取り巻く環境を危惧しています。こうしたことを防ぐために、教員向けの研修の充実やハンドブックの作成等を進めていただきたいと思います。</p>